

ふるさとの道



▲琴似本通での琴似神社秋祭りのみこし行列（昭和47年）

通りの名は、かつてそこで生活した人々の思いや営みを現代の我々に伝えてくれるメッセージです。そのメッセージとともに街の歴史を振り返ってみましょう。

①

琴似本通

北海道で最初の屯田兵が琴似に入植する前年の明治七年開拓使が造った中央道路が現在の琴似本通です。道路幅は当時とほとんど変わっていません。当時、この通りの両側には屯田兵屋が整然と立ち並んでいました。明治三十七年の屯田兵制度廃止後、この道路一帯はそのまま琴似の中心市街となり、現在のような商店街へと発展しました。また、名称も地域の基礎となる道路の意から、「本通」と名付けられました。

②

川添通

現在の西郵便局（山の手五の一）付近に、水上通（みずかみ）という通りがありました。この通りの脇には発寒川（当時）を源とした川があり、旧国道五号線から東に折れて、琴似本通に沿って流れていました。この川（水上川と呼ばれていました）と琴似発寒川との間を走るところから名付けられたのが川添通です。なお、水上川は戦後しばらくは残っていましたが、都市化によって次々と埋め立てられ、今ではその痕跡さえなくなっていました。



▲現在の川添通（琴似3-4付近）